

第38回

日本教育史研究会 サマーセミナー

歴史のなかの“いのち”を考える

—失われた“いのち”の記憶をどう紡ぐのか—

会場：大学サテライト・プラザ彦根

彦根駅西口前「アル・プラザ彦根」6階

8月24日（土）13：30～17：30

「災害に晒される“いのち”」

- ・上田誠二（横浜高等教育専門学校）
「〈いのち〉〈感情〉〈郷土〉の教育社会史
—神奈川県女子師範学校の震災と戦争—」
- ・岩田重則（中央大学）
「災害死現場からの死生観」

コメント 羽賀祥二（名古屋大学・名誉教授）

8月25日（日）9：40～13：00

「捧げられ祀られる対象としての“いのち”」

- ・白岩伸也（筑波大学・大学院生）
「海軍飛行予科練生をめぐる“いのち”の「記憶」は
どのように伝えられてきたのか」
- ・水谷孝信（滋賀県立高等学校非常勤講師）
「戦争記念碑と「戦死」意識」

コメント 矢野智司（京都大学）

*報告タイトルは変更することがあります

参加費：1000円 申込不要（どなたでも参加できます）

お問い合わせ 日本教育史研究会 <http://jhes.sakura.ne.jp/>